

## 常識をうちやぶるたたかいを！ 近畿地協 23 春闘学習会

金融労連近畿地協では、3月11日、関西勤労者教育協会の箕作勝則氏を講師に招き、リモート方式で春闘学習会を開催しました。今回の学習会には、東京、静岡、福岡の仲間など12カ所から14人が参加しました。講演は『常識をうちやぶるたたかいを』と題して、23春闘をめぐり①賃上げについて、②安保3文書改悪など戦争と平和について、③春の統一地方選挙についての3点について解説されました。

### 賃金は「貢献度」ではなく「生活給」

①の賃上げについて「日本以外の先進国は賃金が上がっているのに、なぜ日本だけが上がらないのか」を労働者に質問すると、「大企業が内部留保をため込んでいるから」「政府の政策が悪いから」「原材料価格が高騰して会社も大変だから」という答えが返ってくるが「労働組合がストライキをたたかわないからだ」という答えは返ってこない指摘。

全労連は今春闘で「労働組合のバージョンアップ」を掲げ、「ストライキでたたかうか、それに匹敵する交渉力を持って挑もう」と呼びかけているが、日本の現状はストライキで闘うというのは「非常識」になっているとして、賃上げを勝ち取るために23春闘では「常識をうちやぶるたたかい」が求められていると訴えました。

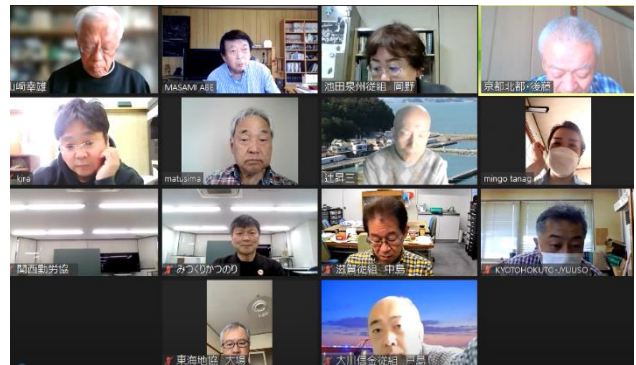
さらに、賃金の形態には年功給、職能給など「人を基準とする」賃金と、成果主義賃金やそれに代わって導入されてきた職務給、役割給など「仕事を基準」とする賃金の形態があると説明。しかし、双方ともに本質的には企業に対する貢献度によるものであり、資本主義経済における賃金は労働力の再生産＝労働者の生活を維持するものであると解説し、経済学の基礎理論にも触れて、賃上げ実現の重要性を解説しました。

### ウソを見抜いて大幅賃上げ実現を

「賃金さがり続けている中で今、40年ぶりの物価高騰に直面している。政治のウソを見抜き大幅な賃上げを勝ち取ることが大事だ。1997年の賃金と比較して、先進国は賃金が上がっているのに日本だけが下がっている。富裕層や大企業を優遇する政策をとり、経済活動を活性化させれば、富が低所得者

層に向かって流れ落ち、国民全体の利益になるというトリクルダウンはウソ。かつて世界第2位だった日本の一人当たりのGDPも27位まで落ち込んでいる。賃金さがり続けているうえに、社会保障も削られている。消費税は社会保障のため導入されたが、全く社会保障は充実していない。出生数はずっと下落し過去最低の70万人台になり、子供を産み育てる展望もなくなった。国民年金も40年加入しても月に6万5千円にしかない。物価上昇率2.5%の中で物価高なのに年金が減らされる。生活保護も高齢者世帯は据え置くことになっている。」と、国や経営側のウソを見破ることに焦点をあてて話がされました。

③の統一地方選挙に関連しては、維新の会は「身を切る改革」を進めているというというイメージが支持されているが、大阪市では小学校の統廃合が進められ生野区では19校あった小学校が13校に統合されて、小学校1年生の子供たちが40分歩いて通



学しなければならなくなった実態を指摘。その一方で、民営化が進められ高額な父母負担が必要なインターナショナルスクールは、統合で閉校となった校舎に市の助成を受けて開校するなど教育の民営化＝格差拡大の維新政治の実態を明らかにし、維新政治の拡大阻止を訴えました。

### 地域経済活性化につながった事例への共感

講演を受けて行われた討論では、「労働条件は賃上げなし。残業なし。時差出勤。節約には限界がある」「新入職員から3年目までベースアップが実現したが、中間職に不満がある。給与が低く辞めていく。ベースアップについて交渉していきたい」「賃

上げ、臨給以外に物価高に対応した一時金を要求していく」「優秀な人材は高い賃金の所へいく。経営者自体が頭を切り替えないと銀行がもたない」などの意見が出されました。また、講演の中で説明された明石市の子育て支援市政について、子育て世代への手厚い助成が人口減少に歯止めをかけ、さらに増加に転じさせ地域商店の出店を増加させるなど、地域経済活性化につながった事例への共感が参加者から出され、地域金融機関として地域の活性化、中小企業支援の重要性が確認されました。また 23 春闘でいかに要求実現を勝ち取るかについて箕作氏は自身の生協労組の取り組みを紹介し、「労働者一人ひとりが、給与は生活給という確信があるのか？賃金は生活費。物価高騰に対応した賃金に引き上げるべき。労働者が、労働者という意識をもって団結することが必要」などと、経営との対決以前に組合員に訴えていくことの重要性を強調しました。



最後に松島事務局次長が「箕作講師の豊富なレジュメを駆使した賃金問題を中心にしたお話はよく理解できた。自分たちの生活を自分たちで向上させよう」と閉会のあいさつを行い、ガンバロー三唱で春闘学習会を成功裏に終えることができました。

## ■ 『あべちゃんのパソコン教室』

3月16日(木)に中舞鶴総合会館5階フレアス舞鶴で『あべちゃんのパソコン教室』を開催しました。

参加者は3名でした。テーマは『舞鶴市電子図書館』です。3月1日に舞鶴市は『広報まいづる』に『舞鶴市電子図書館』を公表しました。

3月10日に運用開始ですが、運用マニュアルもなく見切り発車でした。そこで『あべちゃんのパソコン教室』は『舞鶴市電子図書館』に取り組みました。まず、パスワードを申請し受理されたことを確認し運用しました。パスワードの申請のIDはメールアドレス、パスワードは任意。『舞鶴市電子図書館』のIDは貸出券番号、パスワードは申請したパスワード。ここがわかりにくい。電子図書館にアクセスし、2週間に2冊、しかも無料で借りられる。

谷川俊太郎の詩集や半藤一利の名著『昭和史上・下』も簡単に読書ができる。シルバー層曰く読書は紙の本が基本や。行間を読み思考する。これが読書の基本や。ちょっと待ってください。読書も進化しています。老眼鏡をかけず、画面上で本を拡大し読む快適さも味わって欲しい。書棚も要らない。図書

館へ行く必要もない。印刷は活版印刷からパソコンへ劇的に変化しました。紙の本もいい。電子図書もいい。活版印刷も人間の温もりを感じる。パソコンで編集した印刷は劇的に処理時間を短縮できた。書物もいろいろあっていい。楽しく生活するのがいい。印刷屋の次男坊に生まれた私の意見。

(京都北都・阿部通信員)



◆3月22日、金融ユニオンは「みどうすじ総行動」の仲間と一緒に、近畿財務局への要請行動に取り組みました。要請に対する回答は4月12日の予定。

◆1年前の大阪事務所移転の際に大川信金の仲間から贈ってもらった胡蝶蘭が同室の「大阪中央区労連」の皆さんのお世話で今年も小振りながら花が咲きました。



## 忘れ物していませんか？

### 金融機関の窓口の対応にショック

4月7日、近畿地協阿部事務局長と一緒に組合の預金口座のある2つの金融機関に住所変更の届出に行きましたが、両金融機関とも「何か大切なものを忘れていないのでは？」と思わざるをえない残念な対応でした。

人減らしや収益優先経営の結果でしょうが、1時間以上お客さんを待たせるのは当たり前のように、預金の出し入れ以外には利用していない、いわゆる「財布がわり」だけなのに、「お金を預かってやっている」的な上から目線の感じが、ひしひしと伝わってきて不愉快でした。温厚な阿部事務局長も思わず「キレ」かけて、「うちの信金ではこんな面倒なことなど言わない」と言う。「よそはよそ、うちはうちのやり方がある」とほざいておられました。

庶民や弱い者の味方だと思っていた地域金融機関  
がこんな対応では、地域の信頼など得られず、いず  
れ地域からも  
見放されるの  
ではないかと  
思いました。

